

2019年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第2期）

入学者選抜試験 陶芸（陶・磁・ガラス造形）

2019年2月13日

筆答試験 1

（10：00～10：30）

問題 1

・以下、何の説明か解答用紙に答えなさい。

[1] 斜面を利用したトンネル状の窯をいう。5世紀前半に朝鮮半島から伝播した窯構造で須恵器、灰釉陶器、中世陶器の焼成に使用された。地上式登り窯に対して沈み窯と俗称される。丘陵斜面をトンネル状に削り貫く地下式と、堀り割りにして上部を架構する半地下式とがあり、焚き口・燃焼室・焼成室・煙道の各部からなる。窯業工学上、地下式・半地下式の直炎式単室の窯炉をさし、倒炎式連房の登り窯と区別する

[2] $(\text{Na}_2\text{O} \cdot n\text{SiO}_2)$ のことで、水ガラスとも言う。透明、無臭のモル比が2.1-3.5の粘性のある水溶液。主に粘土や坏土の解膠剤として鑄込み泥しょう等に使用する。また坏土を解膠する働きを利用しスリップウェアなどの技法などにも用いられる。

[3] オーストリア・ウィーン出身。英国で活躍した陶芸家。（1902—1995）ウィーン工業美術学校で学んだが、ナチスのユダヤ人迫害から逃れ、ロンドンに工房兼住居を構え、英国人として生涯を全うした。試行錯誤を重ね、シンプルながらもモダンで個性的なフォルム、独自の釉薬による表現を追求し高い評価を受けた。一時期請け負っていた陶磁器による服飾用ボタン制作を通して、さまざまな釉薬の研究などの技術と知識を深め、自身の作品に活かした。後年は当時の英国ではあまり多くなかった高温焼成による作品制作をした。民芸運動のバーナード・リーチに認められ指導を受け、民芸運動にはあまり同調しなかったが、その後もさまざまな場面において彼の後押しを受けた。共同作業をしたハンス・コパーとは、工房を別にした晩年までその親交の深かったことは有名である。1991年、大英帝国二等勲爵士の称号を贈られる。

[4] 酸化銅を呈色剤とする紅釉と釉裏紅を指す日本での名称。硫化水銀の朱色になぞらえた呼称で、紅色を呈した高火度釉をいう。白磁釉の中に銅を含ませ、紅色に呈色させる手法は、中国では紅釉といい、銅を絵具に使うて白磁の透明釉下に文様を描く下絵付け法は、文字通り釉裏紅という。

[5] 素地装飾技法の一つで、色の違う二つ以上の素地土を交互に重ね合わせたり、練り合わせて文様を作ること。タタラに成形した色土を重ね合わせ、合わせ目に糊剤として泥漿を引き、空気が入らぬように注意して重ねて作る。タタラの厚さ、合わせ方、曲げ方、練り方などの工夫によって縞模様、木目模様などの複雑な表情ができる。成形は型を使ったものが一般的ではあるが、轆轤での成形も行われる。

[6] 愛知県瀬戸・猿投地区、岐阜県東濃地区、三重県島ヶ原地区などに産出する、耐火度が高く、可塑性、乾燥強度の大きい炭質風化堆積粘土。炭化した木片を含むことが多いことから名付けられたといわれている。

[7] 焼成時に酸素が不十分な状態で焼成する焼成方法のこと。不完全燃焼状態の炎はより完全な焼成の為に酸素を求め、焼成物の胎土や釉に含まれている酸素を吸奪する作用が起きる。これを意図した焼成方法である。窯中に発生した一酸化炭素ガスや炭化水素ガスが、胎土や釉中の酸化金属を酸素の割合の少ない物質、または全く含まない物質に変えて、胎土や釉の色調を変えるばかりでなく、胎土の結合を強固に変える。代表的な作用は、青磁釉にみられるように鉄が青く発色する。

[8] 現在のベトナム北部で焼かれたベトナム陶磁の日本での呼称。中国の唐時代におけるこの地域の呼称に由来する。16世紀後半から17世紀前期を中心に渡来し、茶道具に多く用いられた。

[9] 朝鮮時代前期の15・16世紀に焼かれた白化粧陶器の一種。韓国でいう粉青沙器に属する。粉吹きともいう。粗い陶胎を白泥の桶にずぶりと浸け込んで化粧掛けするところに特色があり、これに透明釉を掛けて高火度で焼成している。高麗青磁の技術が衰退して成立した作風であった。

[10] 収縮率を合わせた数種類の粘土や顔料を加えた色粘土を使い、生地の上に筋や面を彫ったり、印花を施したりして出来た溝に異なる粘土や泥を埋め込み、生乾きの時に余分な粘土を掻き落として仕上げた加飾技法。朝鮮半島の高麗青磁や三島曆手などが有名。

[11] 京都府生まれ。(1926—2001)

1946年青年作家集団の結成に参加。同団解散後、八木一夫、山田光らとともに走泥社創立に参加した。作品は既成の様式によらず、自由な造形としての陶芸を目指した。壺などの器形をとどめながら絵付けの抽象性を求めた作品から出発し、1954年頃からは器としての機能を持たない造形作品を発表。様々な表現形態を模索した。「泥象」と名付けられた焼き締めシリーズ発表以後洗練度を高めて行った。その後、青白磁にも取り組み独自の形態にわずかな青の色調の変化が融合した新たな表現を広げた。1959年に日本陶磁協会賞受賞。1998年日本芸術大賞受賞。

[12] 中国の北宋から金・元時代の古窯。窯跡は河南省禹州市の鈞台・八卦洞にある代表的な製品は、澱青釉と呼ばれる失透性の青い釉薬が掛けられていた陶器であり、独特の華やかさと落ち着きを具えている。なお澱青釉は日本における呼称であり、中国ではこの釉色を天青といい、色の濃いものは天藍、色の淡いものは月の光になぞらえて月白と呼んでいる。

[13] 有色素地に薄く掛ける白土の陶土。塗り土、スリップともいい、イギリス・ドイツ・フランス語共通でエンゴーベともいう。素地を白く見せ、粗い器面を滑らかにし、吸水性を抑え、釉調を鮮明にし、彩色などが鮮やかになる。カオリン、または白色粘土を主体にして、長石・蠟石や少量の石灰石などを調合し、素地から剥離しにくく密着性を良くする。素地に直接施す方法と素焼き後に施す方法とがある。剥離防止のため、布海苔や合成糊を添加して使用する。また水ガラスを少量添加する事も有効である。

[14] 窯詰め道具の一つで、四角形または円形の耐火性のある板。瀬戸地方ではエブタともいう。これとツクを組み合わせる窯詰めを行う。近年までは耐火粘土で作られていたため、厚さ3cm以上でかなりの重量があったが、現在ではカーボランダム・窒化珪素ムライトなどでつくられるようになり、薄く軽量化した。

[15] 官窯の対語で、中国では明、清時代に官窯の概念が成立してから唱えられるようになった。また、狭義には、中国でも日本でも昭和以降に民間の窯のうち特に実用の粗器を作る雑窯をさして呼ばれることが行われた。これらの二つの概念が混在している。

2019 年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第 2 期）

入学者選抜試験 陶芸（陶・磁・ガラス造形）

2019 年 2 月 13 日

筆 答 試 験 1

問 題 2

以下に挙げた語句をそれぞれ説明しなさい。

- 1 南宋官窯
- 2 古田織部
- 3 セーブル窯

2019年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第2期）

入学者選抜試験 陶芸（陶・磁・ガラス造形）

2019年2月13日

実技試験

（12：30～14：30）

問題 1

与えられた粘土8kgを用い 轆轤びきにより
張りのある大壺と大皿を八角亀板の上に制作しなさい。

注意事項

- * 受験票は受験番号札の横に置きなさい。
- * 別に用意された粘土（1kg）は八角亀板をとめるために使うこと。
- * 与えられた道具のみ使用する。
- * 高台を削ることを前提に制作し、壺はカメ板から切り離すこと。
- * ひき終えた壺は轆轤の天板からはずし、轆轤の横に置きなさい。

2019年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第2期）

入学者選抜試験 陶芸（陶・磁・ガラス造形）

2019年2月13日

筆答試験 2

（10：40～11：20）

用意された作品から、読み解けることを述べなさい。

注意事項

- * 試験時間は40分間です。解答用紙に答えなさい。
- * 作品は触っても構いません。取り扱いには気をつけてください。
- * 白い紙は草案用紙です。持ち帰ってはいけません。